

2025年度春学期 授業における優れた取り組み (Good Practice) 一覧

科目区分	科目名	担当教員	取り組み内容
初年次教育科目	スタートアップセミナー	横江 彩 山岸 綾 早川 紀朱 金 由羅 中村 研一 稲井 栄一 山羽 基浩 橋田 浩	大学での学習スキル（ノートの取り方）を初年次教育で具体的に指導し、学生の学習基盤を構築している。
		市原 寛之 澤村 隆秀 清水 真 威知 謙豪 仁川 栄寿 山下 裕丈 山本 雅也 影浦 順子 趙 偉 寺澤 朝子	学生の理解度に応じて課題を丁寧に説明し、誤りを具体的に指摘するなど、学生に真摯に向き合う姿勢と個別指導を行っている。
		白川 智弘 阿部 仁 伊藤 佳世 曾場 七恵 前田 和昭 西田 豊昭 藤井 辰朗 堀尾 郷介 森岡 孝文 梅川 佳子	プレゼンテーションや資料作成のスキル指導と、教員からの肯定的なフィードバック。
		ゾン ティンティン 加々美 康彦 高 英求 岩間 優希 于 小薇 羽後 静子	課題に対する明確な指示出し、メール、レジュメ、レポート作成方法等の基礎スキルへのきめの細かい指導。
		本田 恵美 愛知 峰子 岡本 聡 越川 次郎 小森 早江 武藤 彩加 嘉原 優子	レポート作成など大学特有の学習方法を授業で扱い、他の授業での学習を支援。

2025年度春学期 授業における優れた取り組み (Good Practice) 一覧

科目区分	科目名	担当教員	取り組み内容
初年次教育科目	スタートアップセミナー	小川 順子 王 昊凡 山本 明 三摩 真己	個別指導による理解の促進。
		北浦 靖之 吉村 和也 渡部 貴志	ゴール（プレゼンテーション）を明確にし、そこに向けて必要なスキルや知識を習得させるための工夫。
		前野 善孝 佐久間 直緒美 香西 はな	授業開始時の活動（他己紹介）が学生間の交流促進とコミュニケーション能力向上に寄与している。
		前野 善孝 佐久間 直緒美 香西 はな	特別講師招聘の制度を使って管理栄養士の方の講演を行い、具体的な将来像をイメージさせている。
		山口 誠二 市原 正智 井上 千聖 岩本 隆司 片野坂公明 川本 善之 喬 善楼 近藤 文雄 新谷 正嶺 祖父江沙矢加 鶴留 雅人 西沢 祐治 野田 明子 古川 圭子 山下 均 山本 幸也 藤田 孝	学生によるプレゼンへの具体的な指導。
		中島 眞吾 大地 宏子 古市真智子 長尾 寛子 大山 卓	文章作成、パワポ、発表などの基礎スキルを身に付けさせる運営上の工夫。
スキル教育科目	英語スキル I	岡田 泰弘	学生の授業への参加意欲を上げる工夫。
			課題を通じて学生が不明点を教員に伝え、それを次回の授業で解説するというフィードバックサイクルが、学生の疑問解消と授業内容の定着に役立っている。
			基礎から分かりやすく教えることで、高校までの内容の理解を助け、英語に対する苦手意識の克服に繋げている。

2025年度春学期 授業における優れた取り組み（Good Practice）一覧

科目区分	科目名	担当教員	取り組み内容
スキル教育科目	英語スキルⅠ	鬼頭 修	事前予習を促す授業スタイルが学生の学習効率の向上につながり、小テストの実施が、理解度の把握と復習を容易にしている。
		橋爪 真理	発話とリスニングの双方に焦点を当てた実践的な活動を積極的に導入し、学生の英語力向上（特に話す力と聞き取る力）という目的を明確化している。
		金子 理紗	ペアワークの活用により、学生間で教え合い、互いに協力して理解を深める学習機会を設けている点。
		今村 洋美	学生の授業参加を促すことにより、理解度を深めている。
			学生の知識の幅を広げ、教養を深めることに貢献している。
		杉山 侑姫	英語を使用した交流の時間（アウトプット機会）を設けることで、学生が楽しみながら主体的に学習に取り組める環境を提供している。
			多様な学習方法を取り入れ、学習への工夫により学生が英語を楽しみながら学ぶことを可能にしている点。
		青木由香里	学生にとって身近で興味を持ちやすい題材を授業に取り入れることで、英語に楽しく触れる機会を提供し、学習意欲を高めている。
		大坪 知佳	学生が集中できる授業運営上の工夫が、苦手意識を持つ学生が英語の克服に繋がっている。
		大門 正幸	学生が交流する機会を多く設けることで、楽しみながら主体的に授業へ参加することを促している。
			隣の学生と英語で会話する機会（ウォーミングアップやアウトプット練習）の設定が、前回の復習と学習の動機づけに繋がっている点。
		竹内 美都	文法事項の丁寧な解説に加え、再確認の機会を設けることで、知識の確実な定着を促進している。
			予習範囲の明示により、学生が学習の準備を整えて授業に臨むことができ、結果として内容のスムーズな理解に直結している点。
		中馬 隼人	授業中の理解促進と、講義資料の公開による自習環境の整備。
			ランダムな指名により、学生の積極的な授業参加を促している。
		長谷川 優菜	授業で扱った資料をオンラインツールで共有することで、学生が繰り返し復習できる環境を提供し、学習効果の向上に貢献している。
		尾野 理音	要点を簡潔に絞って指導することで学習負担を軽減し、苦手意識の克服に繋がっている。
			授業中に適度な休憩を設けるという工夫により、学生が集中力を維持しやすくなる配慮がなされている。

2025年度春学期 授業における優れた取り組み（Good Practice）一覧

科目区分	科目名	担当教員	取り組み内容
スキル教育科目	英語スキルⅠ	鈴木 美紀	学生の学習タイプに合った多様な形式を取り入れ、学習意欲を向上させている。
	英語スキルⅢ	竹内 美都	音読テストや単語テストといった具体的な評価方法により知識習得を促進しており、今後の学習にも役立つと評価されている。
		飯田 雛乃	授業時間内に予習・復習を完結させる効率的な構成と、インタラクティブなツール（Kahoot!）を用いた復習方法が知識の定着に有効。
	情報スキル入門	檜村京一郎	タイピング速度の向上を評価に組み込むことで、学生が授業外でも自主的に学習・練習する動機付けに成功している。
			毎週の課題を通じて、パソコンスキルとネットリテラシーといった実用的な能力を向上させており、さらに質問しやすい環境が確実な理解を支えている。
			講義資料の簡明化が、苦手意識のある学生のスキル向上につながっている。
		山田 裕子	学生の反応を確認しながらの進行と、質問しやすい環境づくりにより、学習への安心感を提供している。
		杉田 暁	高校で基礎を学んだ内容（Excel, PowerPoint, Wordなど）について、復習を含めて学習する機会を提供することで、知識の定着と再確認に貢献している。
		石坂 千佳	学生の理解度や習熟度に合わせた授業展開と、課題の量や難易度の設定の適切さ。学生が実用性を実感できる内容を展開している。
			演習や課題の手順の丁寧な説明、学生のアンケート（意見）を授業資料（スライド）に反映させている。
			既存の知識を持つ学生に対しても、より高度な/新たなパソコン使用方法を、簡潔で分かりやすい説明で提供し、授業の質を高めている。
		鈴木 肇	講義資料に目次機能などの工夫を凝らし、学生が授業後も技術を忘れた際に自己学習・復習しやすいよう配慮している。
			授業時間が終了した後でも、困っている学生に熱意ある個別対応を行っている。
	日本語スキルA	小森早江子	提出物に対する綿密なフィードバックが、学生の次の学習活動に役立っている。
外国語教育科目	パセオアカデミックL&S A	C. A. キャンベル	学生の理解度に寄り添った柔軟な対応を行った結果、学生が内容を理解できることに繋がっている。
		A. マーティネリ A. テイドマーシュ N. リッチ	積極的なアウトプット機会の提供が学生のスキル向上に直結している点と、理解度を定期的に確認するきめ細やかな配慮が、学習の取りこぼしを防いでいる。

2025年度春学期 授業における優れた取り組み (Good Practice) 一覧

科目区分	科目名	担当教員	取り組み内容
教養課題教育科目	世界の歴史と日本	西山 伸一	教員による口頭のみの補足説明が、能動的にメモを取る習慣づけに繋がっている。
		和崎 聖日	日本と相手国双方の視点からの説明により、多角的な理解を促している。
	芸術の世界	水村さおり	学生の集中力維持と内容への積極的な関与を促している。 新しい学習テクニック（ポモドーロ・テクニック：25分間集中して作業し、5分休憩をとるというサイクルを繰り返す時間管理法）を導入し、学生が長時間集中して講義に臨めるよう環境を工夫している
	哲学と思考	鈴木 順子	本講義では、ポモドーロ方式を取り入れた授業進行が特徴。集中力の維持と学修満足度の向上に大きく寄与しており、学生から高い評価を得ている。多角的なテーマ設定が学修意欲を喚起し、興味を持って主体的に学ぶ姿勢を促している。さらに、資料の工夫やコメント紹介、小テストの活用、受講生の反応を見ながらの授業進行など、学生の理解を重視した授業構成に教員の熱意と工夫が感じられる。
		今福 亮	学生に内容を視覚的・直感的に示すことで、理解を促進している。
	生活環境と人間	影浦 順子	課題の難易度が高めであった場合、学生の状況を考慮し臨機応変な対応を行っている。
	物理と自然	平山 貴之	基礎的な分野について、実例を用いて詳しく、かつ分かりやすく講義している。
教養課題教育科目	地球と生命	工藤 健	文系学生にも理解できるよう、専門的な内容を「図を使って説明」し、計算を避ける工夫をしている。また、毎回のレポート提出を内容理解の定着に結びつけている。
特別課題教育科目	持続学のすすめ	鈴木 順子	最初に自分の意見を出すことを促すことで、学生の自発的な思考と議論への参加を引き出している。また、学生自身がテーマを考案する形式も積極性を高めている。
			教員の強い熱意と学生の意見を尊重する姿勢が、クラス全体の雰囲気高め、学生がディスカッションに積極的に参加する動機付けになっている。
			定期的な席替えにより、学生間の交流を広げるとともに、学習環境への悪影響を防ぎ、授業への集中を維持させている。
健康とスポーツ	健康科学	渡辺 武弘	教員が学生一人ひとりの状況（運動が苦手など）を理解し、自分のペースで取り組むことを認め、安心して参加できる環境を提供している。
リベラルアーツ教育科目	リベラルアーツ課題演習C	鈴木 順子 大谷かがり	多様な意見に触れる機会を提供し、安心して議論できる環境を構築している点。複数教員制（2名体制）により授業内容に多様性が生まれている。
		大場 裕一 鈴木 順子	個々の学生に寄り添う熱意ある姿勢が、学生の学習意欲の向上に繋がっている。
工学部共通科目 理工系教育圏科目	微分積分学 I	種子田 誠	学生の理解度に合わせて、視覚的に、かつ丁寧に説明することで、学習内容の理解を促進している。

2025年度春学期 授業における優れた取り組み（Good Practice）一覧

科目区分	科目名	担当教員	取り組み内容
工学部共通科目 理工系教育圏科目	線形代数	渡邊 天鵬	板書（文字）の視認性への配慮と丁寧な解説が理解を助けている。
		大金 邦成	学生の理解度に応じた丁寧な対応、学習支援室の活用の推奨、学生が努力に見合った成果を得られるよう配慮している。
		松下 浩大	抽象的な概念を身近な例に喩えるという、教え方のスキル（説明の上手さ）が理解度を深め、さらに学生の意見を柔軟に取り入れている。
		松本 雅生	一方的な説明だけでなく、学生が主体的に参加する演習形式の採用により、学習内容の定着率を向上させている。
		望月 朝恵	学生の反応を確認しながら進めることで理解度を担保しつつ、映像授業の提供により復習を可能にしている。
			授業中の適切な「間」による学生の思考整理の促進、復習用動画の提供や丁寧な質問対応など、全体的に行き届いた授業運営を行っている。
	企業と工学	城地 貴裕	専門外の分野を実務的な視点から深く学べる機会を提供し、その知識が学生のキャリア形成の参考となっている。 学生の反応を重視する双方向の授業運営と、授業参加の努力が正当に評価されるテスト設計をしている。
機械工学科専門科目	自動車工学	河田 直英 野口 幹夫	就職後も役立つ実用的な情報提供により、専門教育がキャリアに繋がることを学生に実感させている。
都市建設工学科専門科目	施工法	上田 博士 伊東 雅人	実務経験者が担当し、その経験を活かしたわかりやすい資料により理解を深めている点。受講生が資格試験（一級土木）に役立ったと感じている。
	地盤工学	杉井 俊夫	ソフトウェアを用いた実務的な内容の導入と、毎回の授業で前回の復習を行うことで知識の定着を図っている。
	部門創成A	岡本 肇 服部 敦 磯部 友彦 武田 誠 尾花まき子 杉井 俊夫	実務的な内容と、学生が自ら手を動かして学びを深めている点。また、以降の学び（研究）に役立つと認識されている。
応用化学科専門科目	基礎物理化学	山田 直臣	途中式を全部書いて説明する丁寧さが、難しい専門分野の理解をスムーズにし、学生の物理への苦手意識克服に貢献している。
経営総合学科専門科目	会計学入門	仁川 栄寿	毎回の課題を通じて継続的な学習習慣を促し、次回の講義内容の理解を深める仕組みを導入している点。課題の提出期限について学生の学習負担に配慮している。
	現代企業論	松林 康博	外部講師（企業のトップ）を招くことで、学生が将来のキャリアに直結する貴重な情報（採用側の視点など）を得られる機会を提供している。

2025年度春学期 授業における優れた取り組み (Good Practice) 一覧

科目区分	科目名	担当教員	取り組み内容
経営総合学科専門科目	情報科学入門	市原 寛之	小テストの実施が、学生が授業内容を記憶する助けとなっている。
	ビジネス数学入門	藤井 辰朗	大人数の講義でも個々の学生と真摯に向き合う姿勢（巡回指導）を見せている点。また、テストも含めて学習内容の定着を目的とした一貫した教育設計を行っている。
	経済学入門	山口 直樹	練習問題の解答やテスト対策問題を動画・CoursePowerで提供するなど、学生への学習サポート体制が充実している。
			学生が苦手意識を持っていた科目（経済学）を「楽しい」と感じさせるほど魅力的な講義内容と高い指導力、またその結果としてクラス全体の学習意欲を高める雰囲気作りができています。
	社会連携A	山本 雅也 曾場 七恵 山口 直樹	リアクションシートの導入により、学生が自身の学習内容を振り返り、今後の学習につなげることができた点。さらに、全体のリアクションシート振り返りにより、学生が自チームの立ち位置を把握できるよう配慮されており、学習の自己管理に役立っている。
	簿記A	鳥辺 春菜	練習問題の解説を丁寧に、終始継続して行っている点。簿記の出題ポイントに関する具体的な説明により、学習計画を立てやすくしている。
国際学科専門科目	社会学入門	岩間 優希	授業の冒頭で前回の学生の感想をフィードバックする双方向のコミュニケーションが、学生の学習意欲と教員への親近感を高めている。
	国際英語 I B	ジョン ポーリック	英単語テストで語彙学習を促し、発音の聞き取りやすさにより理解が促進されている点。また、文法学習におけるペアワークにより、主体的に文法を使う機会を提供することで、深い内容理解につなげている。
	国際英語 I C	N. ペーテルス	日本語での補足解説や、間違いを丁寧に指導することにより、正確な理解に繋げている。
日本語日本文化学科専門科目 歴史地理学科専門科目	比較文化論	神谷 良法	配布資料が視認性の高さ、平易な言葉や具体例を交えた解説により、学生の理解を促進している。
コミュニケーション学科専門科目 心理学科専門科目 歴史地理学科専門科目	女性の歴史	大江 光子	学生の反応を細かく観察し、学生全員の理解度を考慮したペース配分を実践している。
コミュニケーション学科専門科目 メディア情報社会学科専門科目	メディア論	王 昊凡	資料作成や解説を学生の視点を意識して行うことで、授業内容の理解を促進している。
日本語日本文化学科専門科目	日本語教育概論A	渡辺 民江	「アクティブな学習」や「疑似体験」を通じて、学生に専門分野に対する深い理解を促し、その分野に対する興味と学習意欲を喚起している。
	日本文学入門A	内藤 英子	実物（染め布）に触れたり、能動的な活動（絵を見て話の解釈）を取り入れた体験型の授業が、記憶への定着と深い学習に繋がっている。
	日本語教授法A	武藤 彩加	複数人での対話により多様な意見を聞くことで、学生の視野が広がった点。わかりやすい講義資料により、内容の理解を促進している。

2025年度春学期 授業における優れた取り組み（Good Practice）一覧

科目区分	科目名	担当教員	取り組み内容
日本語日本文化学科専門科目	古典文学講義A	岡本 聡	難解な古典（くずし字）の学習において、英語学習と同様に「反復」を重視した読解の繰り返しを授業内で実施することで、学生が着実にスキルを身につけ、自学意欲を喚起している点
英語英米文化学科専門科目	文化間コミュニケーション論A	塩澤 正	コミュニケーションを促進する授業設計の結果、学生が授業内容を深く理解し、授業への積極的な参加を促すことに成功している。
心理学科専門科目	キャリアディベロップメント特講A	神田 充人	授業を通じて、学生の自己理解（自信を持てた）に繋がっている点。チームワークや先輩との交流による多様な意見交換の機会を提供し、質問しやすい環境を整えている。
	心理演習（査定）	山内 星子 梅村 祐子 浅井 真奈美 小島 朱理 河合 裕子 元木 幸恵 垣内 圭子	様々な実験を通じた心理学の検査方法の学習や授業内での検査機会の提供が、学生にとって貴重な体験となり、さらにその活動が毎回「楽しく」行われたという。
環境生物科学科専門科目 食品栄養科学科食品栄養科学専攻専門科目	機器分析化学	伏見 圭司	「わかりにくいところを丁寧に説明」「動きのある図」を用いて解説するなど、学生に寄り添った授業を展開している。
環境生物科学科専門科目	分子生物学Ⅰ	小島 晶子	毎講義後の小テストにより学生が自身の理解度を把握し、さらにその解説を通じて理解度が向上させている。
食品栄養科学科食品栄養科学専攻専門科目 食品栄養科学科管理栄養科学専攻専門科目	環境問題入門	堀部 貴紀	一見無関係な話が結果的に授業内容と関連しているという工夫により、学生が楽しみながら学習し、深い理解に繋がっている。
食品栄養科学科食品栄養科学専攻専門科目	食品化学基礎実験	渡部 貴志	学生の理解度や特性にかかわらず、親身で丁寧な指導と不安を和らげる声かけをすることで、学びやすい心理的環境を作り出している。
食品栄養科学科管理栄養科学専攻専門科目	基礎化学	前野 善孝	講義中に問題を解く時間を設けることで、学生が内容を納得しやすくなるという学習促進の工夫がされている。
	基礎生物学	長谷川浩一	専門的な授業内容を「身近なこと」に置き換えて説明することで、学生の理解度を向上させている。
	健康管理概論	城 憲秀	授業の冒頭に復習の時間を設けることで、学生がその日の講義や全体の学習において重要となる箇所を明確に把握し、「より理解が深まった」という結果につながっている点
	微生物学Ⅱ	宮田 茂	スライド資料に写真を多用し、学生がイメージしながら楽しく学習できるように工夫している点。授業の合間に休憩時間を設けることで学生の集中力を維持できるように配慮している。
生命医科学科専門科目 作業療法学科専門科目 臨床工科学科専門科目	解剖・組織学	西沢 祐治 榊原 明	専門知識を視覚的に示すことで、学生の理解を促進している。

2025年度春学期 授業における優れた取り組み (Good Practice) 一覧

科目区分	科目名	担当教員	取り組み内容
生命医科学科専門科目 保健看護学科専門科目	生化学	古川 圭子 坪井 秀夫 上村 和秀	わかりやすいレジュメを配付するだけでなくとどまらず、教員の説明をメモすることでさらに理解が深まるような授業運営上の工夫により、社会で必要とされるスキル（傾聴と記録）も向上させている。
			学生が安心して質問できる環境を整えることで、学習への積極性を高めている。
保健看護学科専門科目	急性期看護学Ⅰ（救急・クリティカルケア看護）	江尻 晴美 サブレ森田さゆり 荒川 尚子 大屋 富彦	教員の実体験や動画資料により、学生に専門知識を実務に結び付けて深く考えさせている。
	養護健康相談活動	津田 聡子	講義内容を実践的にイメージさせ、理解を促進している。
臨床工学科専門科目	医用材料工学	大海 雄介	基礎知識から丁寧に積み上げて専門知識の理解を確実に促し、さらにキャリア支援（国家試験の問題）にも繋げている。
スポーツ保健医療学科専門科目	運動処方論	堀田 典生	教員が伝えたい要点や重要事項を板書で明確に示すことが、学生の正確な要点理解に繋がっている。
			ランダム指名形式により、受動的な学生も含め授業への全体参加を促す効果的な手段となっている。
			学習の重要箇所を資料で明確化することで、学生が効率的に予習・復習に取り組める学習環境を構築している。
現代教育学科専門科目	教育学概論	三品 陽平	他者との意見交換により、学生にテーマに対する深い思考と多角的な視点を与え、学習効果を高めている。
	現代社会と教育A	神田 充人	自己PRや自己理解といった汎用的なキャリアスキルを指導することで、学生の将来にわたる自己成長に繋げている。
	現代教育課題研究A	高木 徹	論文の読み方、資料の探し方の具体的指導が、当該科目受講後の学生のスキル向上にも繋がっている。
現代教育学科現代教育専攻専門科目	国語科研究	高木 徹 橋倉 美嘉	教員採用試験対策と、実践的な指導技術の両面で具体的な指導を提供し、学生の教員としての準備を多角的に支援している。
	算数科研究	樋口 万太郎	模擬授業により、学生が自身の能力を客観的に把握できる機会を提供している点と、使い慣れたツールの活用による効果的な学習を促している。
			データに基づいて指導上の課題を分析させ、模擬授業で実践することで、学生が教員としての実践的な思考プロセスを養えるようにしている。
	理科研究	児玉 洋行	授業全体を「教師になった想定」で進めることで、学生に強い職業意識を持たせ、児童の視点との違い（教育者としての視点）も学ばせている。

2025年度春学期 授業における優れた取り組み（Good Practice）一覧

科目区分	科目名	担当教員	取り組み内容
現代教育学科現代教育専攻専門科目	体育科学研究	堀江 志衣 山本 彩未	学生の努力を肯定し、できないことへの挑戦を促す指導姿勢が、学生の学習意欲と成長を後押ししている。
	肢体不自由児の心理	古市真智子	指導案の作成という実践的な活動を通じて、専門分野への理解を深めさせている。
現代教育学科中等教育国語数学専攻専門科目	数学基礎演習	松原 洋	学生の反応を細かく確認し、質問しやすい雰囲気づくりを行うことで、学生の授業への参加意欲を高めている。
	解析学概論	松原 洋	難しい専門科目において、授業のペースを配慮し、学生への問いかけを頻繁に行うことで、学生の学習参加を容易にしている。
	国語科教育法Ⅱ（中学校）	寺井 一	具体的なフィードバックを通じて、学生が自身の課題を明確に把握し、自己の成長に繋がっている。
	日本語文法論	加藤 直志	学生の活動中に教員が巡回し、個別フィードバック（ヒントや肯定）を行うことで、学生が自身の理解度をリアルタイムで把握し、学習の質を高めている。
	漢文学演習	小崎 智則	教員の丁寧かつ分かりやすい個別指導により、学生の深い学習と達成感をサポートしている。
	古典講読B	高木 徹	授業内容と教員採用試験対策を結びつけ、個別指導まで行うことで、学生の具体的なキャリア目標達成を支援している。
理工系教育圏科目	工学倫理	小川 直哉 服部 幸浩 石川 貴史 松浦 淳	グループワークで多様な意見に触れる機会を提供し、多角的な視点や気づきを得られるようにしている。
数理・物理サイエンス学科専門科目	数理科学講読	相川 弘明 長田 博文 西尾 昌治 河野 泰人 川ノ上 帆 矢代 好克	内容の難易度に応じた、的確かつ柔軟なサポートを実施している。
教職に関する科目	教育原論	澤田 裕之	毎回のフィードバックと、教職関連情報の提供が、学生の今後の学習効果の向上と実務への意識涵養に繋がっている。
学芸員に関する科目	生涯学習概論	澤田 涼	歴史的背景を踏まえ、資格（学芸員）との関連性を明確にすることで、専門的な学習の意義を深め、グループワークにより学習内容の重要性の理解を促している。
	博物館経営論	柏木 晴香	専門知識の講義に加え、実践的な情報を提示することで学生の興味関心を引き出している。